

# マンション住民の自治会活動への参加 ～発災時の安否確認から考える～

パート2



この資料は、受講生が地域デザインカレッジのプログラムの中で考えた企画を発表用にまとめたものです。自治会や町内会が組織として作成したものではありませんのでご了承ください。

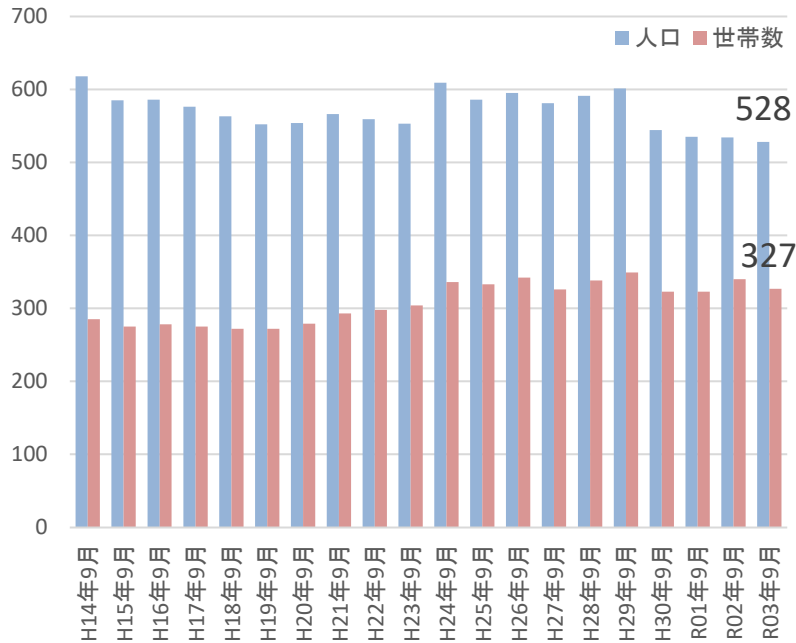
2023.12.23

常磐町2丁目自治会 会長 鈴木宏明

# 常磐町2丁目地区の概要

## 1 地区の概要

人口528人、327世帯（令和3年9月現在）



## 位置図

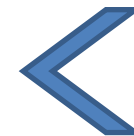


## 2 地区の特徴

①静岡市の中心市街地として  
商店街、歓楽街、住宅街などが  
集積する多様な地域

② マンション住民が多い地域

一戸建て  
60世帯



共同住宅  
243世帯

約4倍！

(2020国勢調査住宅別世帯数、人員数 調べ)

# 常磐町2丁目自治会の理想の姿

マンション住民にも自治会活動の有意義性を理解してもらおう（特に防災活動）



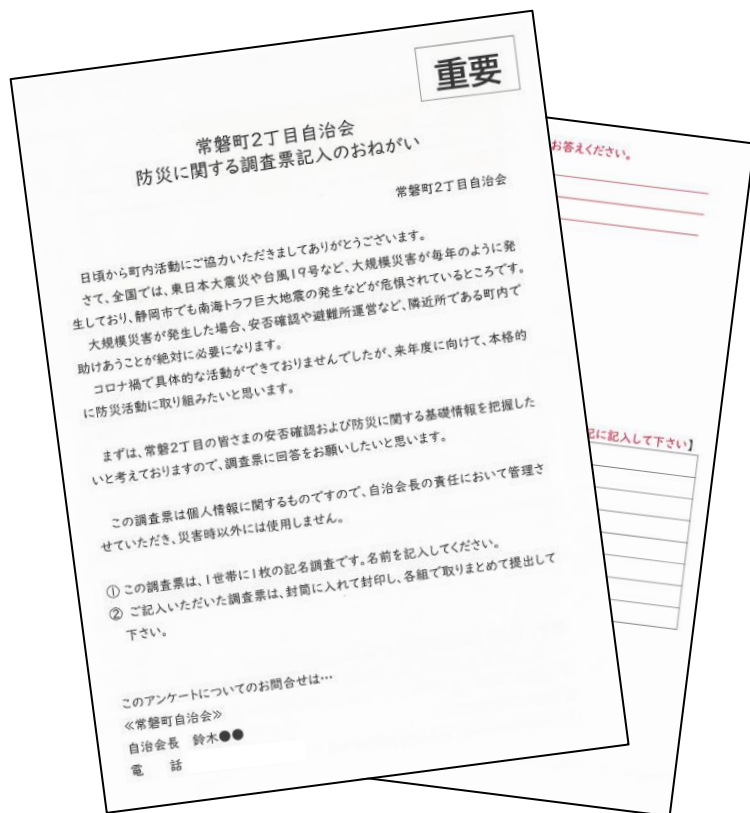
防災活動などを通じて、交流の促進を図る



町内に住んでいる住民全てが、町内活動に参加している状態を目指したい。

# 令和3年の取り組み

令和3年3月に、戸建てとマンション住民に対する防災アンケートを実施した。



## 【防災アンケートの目的】

- ・ 世帯構成や要支援者の把握
- ・ 地域防災に関する意識啓発
- ・ 避難地等の周知

## 【概要】

対 象：常磐町2丁目全世帯

部 数：約400部

回答方法：組長がアンケート回収

# 令和3年のアンケートの効果

## アンケートの効果！

- ・ 2つのマンションが自治会活動に協力的になった。  
(防災委員や自治会役員の選出、マンションの一室の会議室を  
防災本部として利用させてもらえることになった)

## しかし…

- ・ アンケートに対するフォローアップができていない。  
(要支援者情報の整理など)



そこで・・・

令和5年9月に、アンケートを追加で実施することにした。

# 令和5年の取り組み（アンケート）

## 【目的】

- ・ 災害時に安否確認が必要なことを住民に知らせるため。
- ・ 災害時の安否確認を希望するかどうか確認するため。
- ・ **安否確認用の防災用品**の希望を確認するため。

「タオル」もしくは「マグネット」のどちらを希望するかを確認する。  
(常磐町2丁目では、今年度から安否確認用に取り入れることになった)

## 【概要】

実施期間：9月上旬～中旬（約2週間）

対象者：一戸建て住宅＋マンションを含めた300部

（マンションは管理会社に確認の上、実施する）

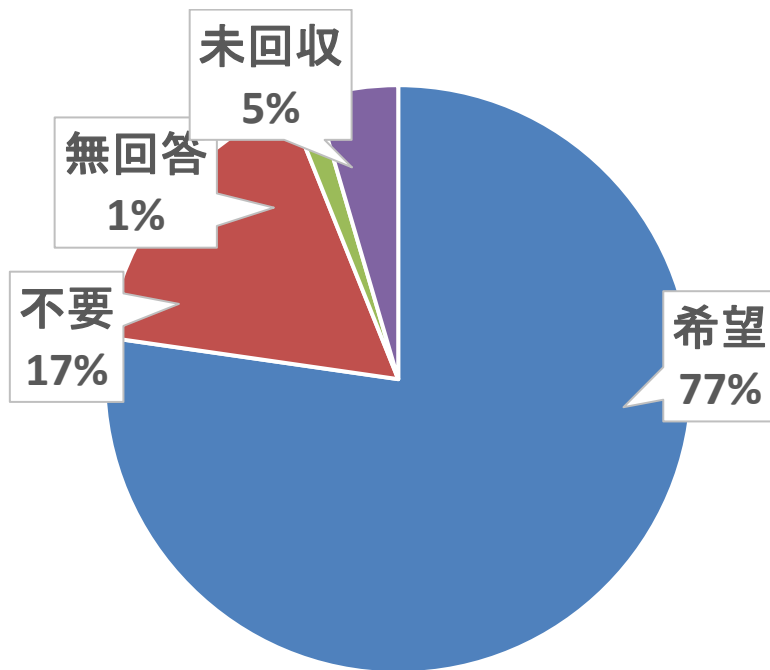
配布方法：一戸建て …組長が住民へ配布

マンション…管理人や管理会社から住民へ配布

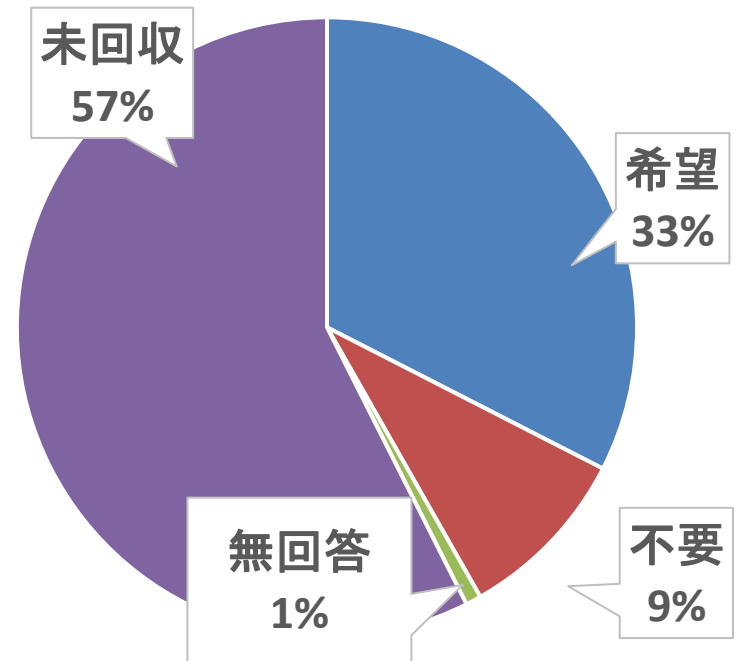
# アンケートの結果

問1：大規模な災害に見舞われた時、自治会による安否確認を希望するか（希望者は氏名や住所等の情報も記入）

戸建て+その他（事業所兼アパート等）



マンション



◎マンション住民の回収分のうち、**約7割**が安否確認を希望している！  
(グラフの青い部分)

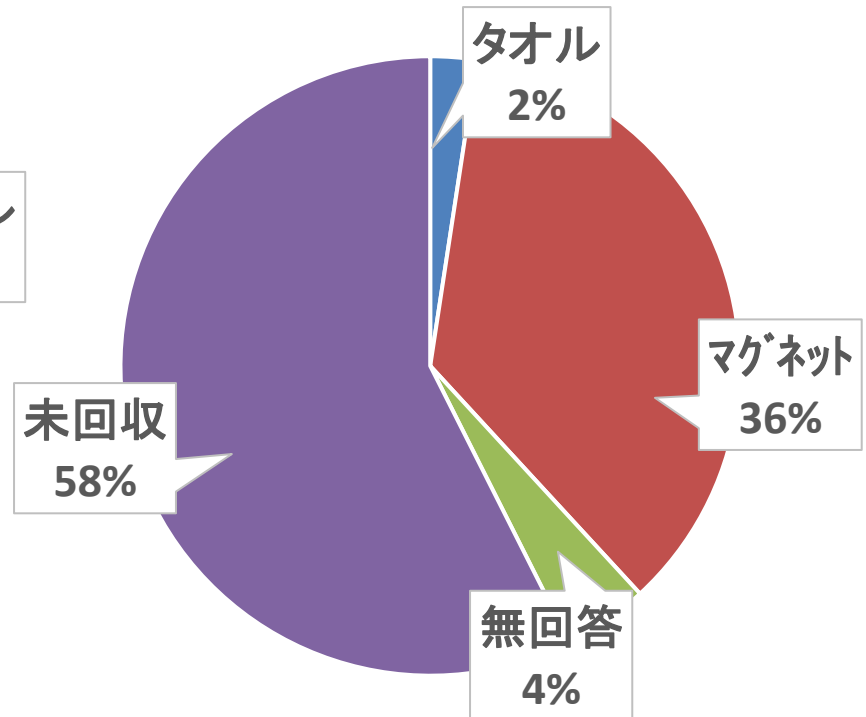
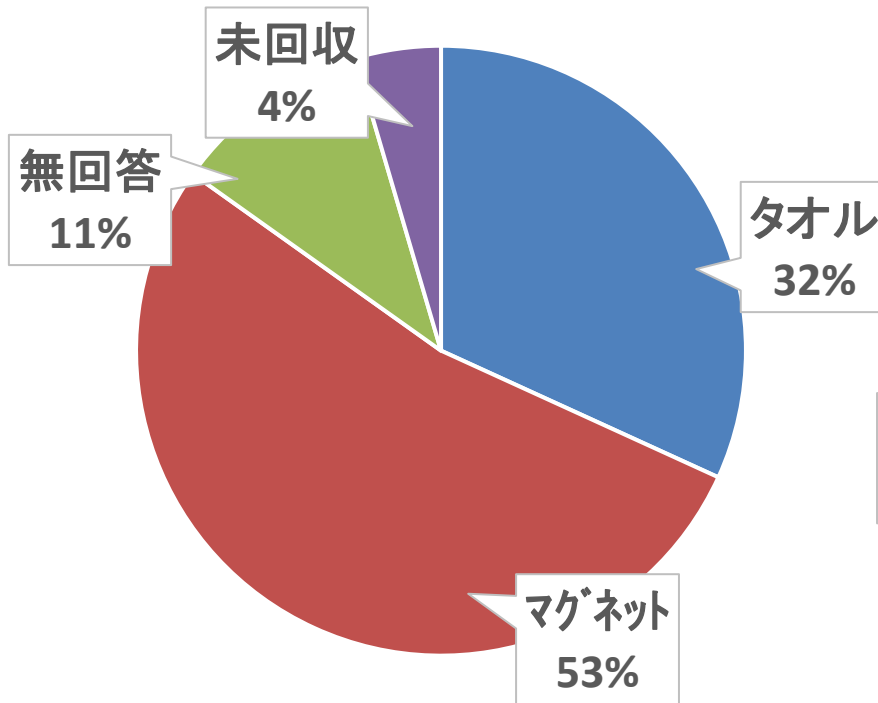
# アンケートの結果

問2： 安否確認用の防災備品は、  
タオルとマグネットのどちらを希望するか



戸建て+その他（事業所兼アパート等）

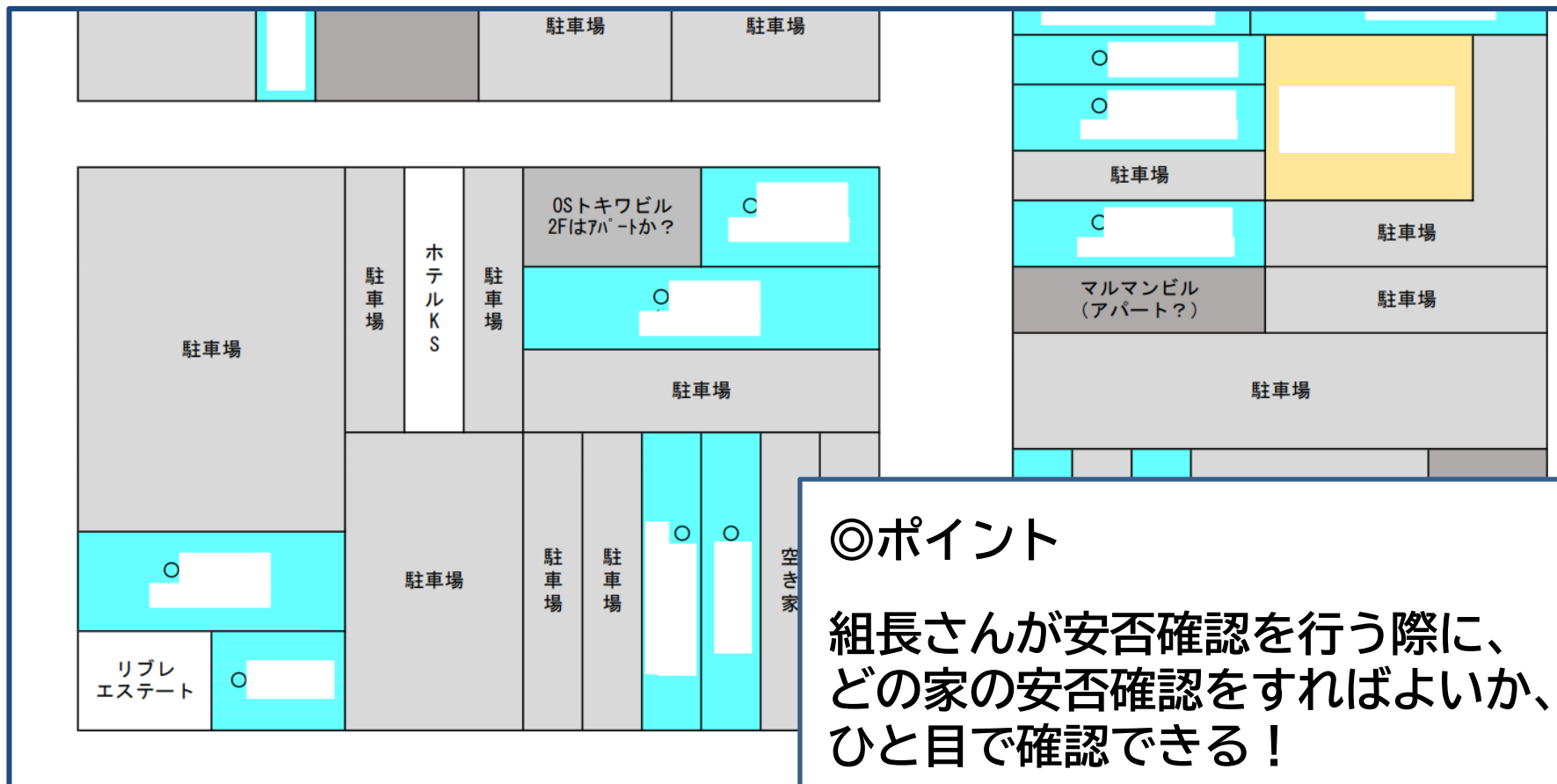
マンション





# 安否確認用の地図を作成

凡例	○安否確認希望	安否確認希望無し	未回収	マンション回収済	マンション未回収	事業所・駐車場等
----	---------	----------	-----	----------	----------	----------



# これからの取組予定

## ・ 安否確認用地図の共有

戸建ては組長に、マンションは管理人に地図を渡す。  
(戸建ては組長が安否確認を行う)

※名簿も共有したいが、要支援者情報など個人情報を含むため  
共有が難しい → 引き続き検討

## ・ マンション住民の安否確認方法の検討

全てのマンションで統一的な安否確認方法が取れない。  
個々のマンションで安否確認の方法を検討してもらう必要がある。

### ◎安否確認方法が決まっているマンション

各フロア(階)の代表者が、そのマンションに住む防災委員に報告  
→自治会長に報告 という流れ。

### ◎安否確認方法が決まっていないマンション

12月の自治会協議会で今回のアンケート結果を共有する。  
安否確認方法が決まっているマンションの事例を紹介する。  
→各マンションで安否確認をどうするか課題提起する。